

アブラコウモリ生態資料

一川崎市中原区小杉陣屋町付近における一その(2) ねぐら・出入口及び個体数について

谷口勝直*・峯岸秀雄**・木下あけみ***

Ecological Note of *Pipistrellus abramis* (TEMMINCK, 1840)

— a population at Kosugijinya chō, Nakahara ku, Kawasaki City, Kanagawa, Japan—

Part(2) Nests, Entrance & Individual numbers.

Katsunao TANIGUCHI, Hideo MINEGISHI, Akemi KINOSHITA

1 はじめに

1988年の第1報にひきつづき、今回は、小杉陣屋町付近における、アブラコウモリがねぐらとする建物の種類・出入口及びその方向、各戸ごとの個体数について報告する。前回同様、谷口勝直氏が直接調査された資料を、峯岸及び木下がまとめたものである。方法は、各戸ごとに、氏が、早朝及び日没時にコウモリが出入りする時に立って、出入口を確かめ、出入りする個体数をカウントして平均を求めたものである。

2 小杉陣屋町付近におけるアブラコウモリの生息する建物・出入口及び個体数

表1及び図1は、小杉陣屋町付近のアブラコウモリの生息する各戸ごとの建築形態、出入りする場所・その高さ・方角、及び個体数を、資料を元にしてまとめたものである。

調査No.に○のついたものは、第一報(1988年)以後、その家が新改築された建物である。したがって現在ではコウモリのいなくなった所が多い(一部では又出入りするようになった例もある)。また、現在コウモリがいなくなった建物には、建築形態の欄に×印をつけてある。なお、個体数の調査は、早朝、日の出前後に戻ってきて出入口から入る個体数と、夕方、日没直後、同じく飛び出す個体数をカウントしたものであるが、表には、日の出前のカウント数の数回分を平均して記入してある。これは、日没時より、日の出時の方が明るく、正確を期しやすかったからである。又、一戸に数ヶ所出入口がある場合、出る時は各所から飛び出しで見失うこともあるからでもある。

3 考 察

前報で、アブラコウモリが高密度でこの町には棲んでいることを示し、その条件の一つとして「古くからの家がある程度密度高く集まっていること」をあげておいたが、表1を見てわかるように、木造の二階建又は平屋の日本家屋がほとんどである。その天井裏に入り、ねぐらにしている例が多いと思われる。しかし、通気孔の中や戸袋の中をねぐらにしている例もあるようだ。調査結果から見るねぐらの出入口は、鬼瓦など軒の瓦の下が多い。又、その下の壁のすきま、時には雨戸の戸袋から入ったり出たりしている。木造の日本家屋には、天井裏へのすきまが意外に多く、やや古くなればなおさらである。アブラコウモリの頭骨の直径が1 cm位であるから、これさえ入れれば、もぐり込むようである。ほんのわずかなすきまでも出入口になるのである。かなりすきまの乏しいプレハブ、ほとんどないコンクリート造りの場合は、必ず存在している換気孔が使われている。

個体数では、ほとんど10以下で少ないようであるが、これはもう少し多い可能性がある。即ち、このデータは先に述べたように、正確を期するために入る時をカウントしたので、同じ家が出る時を数えると、正確にカウントできた場合で、約3倍になっているそうである。これは、日没時に出る時は、一斉に飛び出すのに比べて、明け方は、日の出というも、その前後かなり幅のある時間帯になり、時には夜中に帰るのもあるらしいからである。出入口の方角はあまり決まっていないうようである。

なお、この町も、最近、自宅の建て替え新築や改築が多く、この際、コウモリは一時ねぐらを失い、又、完成後は、出入口を失うことが多く、町全体として、個体数が減り気味であるようである。しかし、元の家に戻ったり、又、近くの家で個体数が増えて引っ越し

* 川崎市青少年科学館市民自然調査団

** 日本女子大附属高校

*** 川崎市青少年科学館

をする例もある。ただし、同一のねぐらで、建物の状態が変わらなくても、何らかの原因で、年ごとに個体数の変動もあるので、簡単には結論を出すべきではなく、なお詳しい調査が必要とされる。下に同一建物における、年度による個体数変動の例をあげておく。

No.9 の場合

1987年 165匹

1988年 250匹

1989年 28匹 (すべて夕方のカウント数)

何も改築したり、手をいれていない場合である。

(峯岸)

引用文献

谷口勝直・峯岸秀雄・木下あけみ(1988) アブラコウモリ生態資料 — 川崎市中原区小杉陣屋町付近における — その(1) 密度。「川崎市青少年科学館年報(昭和62年)No.5」pp.23-30.川崎市教育委員会

表1 ねぐら出入口・その高さ・方角・個体数及び建築形態

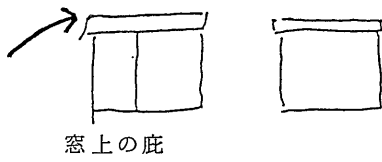
ねぐら番号	コウモリの出入りする場所	同左高さ	同左方角	個体数	建築形態
6	瓦の下	2階屋根	南	6	木造 2階
7	窓上の庇	"	西	7	" ×
8	樋の裏	"	北	4	"
9	軒下	"	東西南北	250*	"
10	瓦の下窓上の庇	"	北	5	" × 店舗と共同住宅
11	樋の裏	"	西	4	木造 2階
12	窓上の庇	2階	西	4	"
13	軒下(スレート瓦下)戸袋下(継目)	2階屋根 2階	東南	12	"
⑭	鬼瓦の中	2階屋根	北	4	" ×
15	窓上の庇	2階	西	150*	"
16	軒下	2階屋根	北(東北角)	6	"
17	軒西側から4枚目	"	北	5	"
18	けらば瓦樋の裏	"	西北	5	"
⑰	戸袋	2階	北	4	" ×

(注) ・ねぐら番号は、第1報(1988)と対応している。

・個体数は、あけ方のカウント数であるが、*印のもののみ、夕方のカウント数を記した。

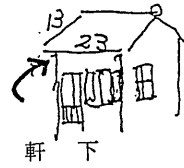
ねぐら番号	コウモリの出入りする場所	同左高さ	同左方角	個体数	建築形態
20	窓の庇はいながら入る	2階	北	1	木造 2階
21	瓦の下	2階屋根	西	3	"
22	樋の裏3ヶ所	"	北東	12~13	"
⑳	通気孔鬼瓦の中	"	西	6	"
24	鬼瓦の中	"	北	5	"
25	通気孔	"	南	4	"
26	家の壁の破れ目(その下は板張り)	2階	北	4	"
27	通気孔	1階屋根	北	2	木造 平屋
㉑	軒下	"	西	3	" ×
29	鬼瓦の中	2階屋根	北	10	木造 2階
30	戸袋	2階	南	3	" × 総モルタル吹付
31	鬼瓦の中	2階屋根	東	10	木造 2階
32	樋の裏戸袋	2階	北	6	"
33	瓦の下	2階屋根	東	1	"
34	"	"	西	2	"
35	"	"	南北	4	"

No. 7



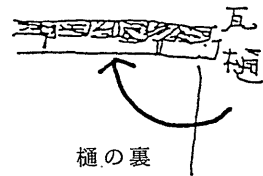
窓上の庇

No. 9



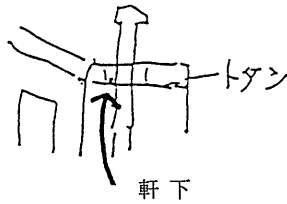
軒下

No. 11



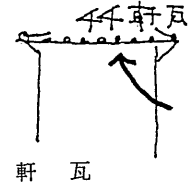
樋の裏

No. 13

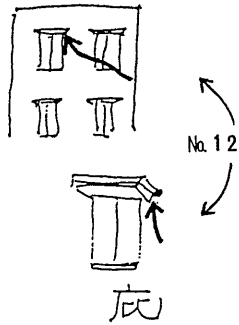


軒下

No. 17



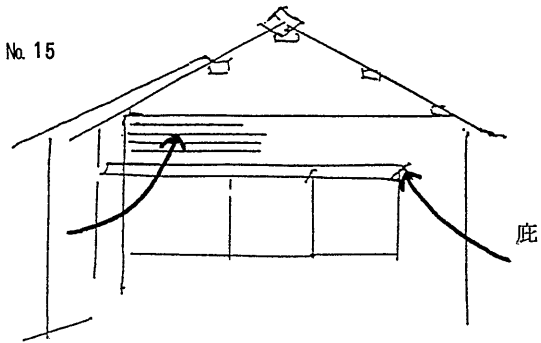
軒瓦



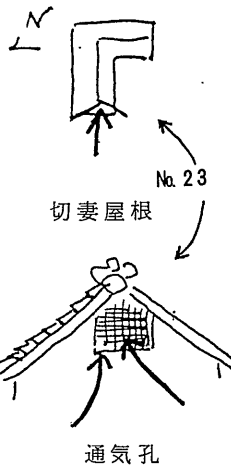
No. 12

庇

No. 15



庇

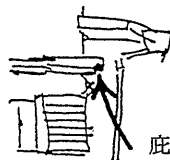


No. 23

切妻屋根

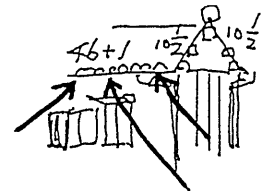
通気孔

No. 20



庇

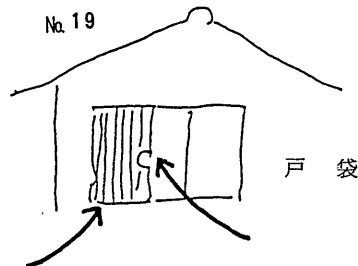
No. 22 樋の裏



No. 18 けらば瓦



No. 19



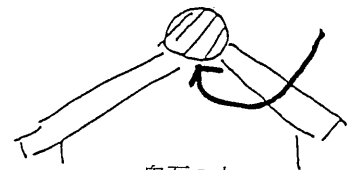
戸袋

図1. ねぐら出入口スケッチ

ねぐら番号	コウモリの 出入りする場所	同左 高さ	同左 方角	個 体 数	建築形態
41	通気孔	2階屋根	北	1	軽量プレハブ 2階
42	樋の裏	3階屋根	北	2	軽量プレハブ 3階
④3	鬼瓦の中	2階屋根	東	3	木造 2階×
44	瓦の下	"	北	3	"
45	"	"	東西	10	"
④6	樋の裏	"	北	6	" ×
④7	車庫(コンクリート とトタン貼りの間)	1階	南	3	コンクリート小屋併用×
48	樋の裏	2階屋根	南	4	木造 2階×
49	庇戸袋 3ヶ所	2階	東	31	"
50	軒下	1階屋根	南	2	木造平屋古建物×
51	窓上の庇 (北側左窓)	2階	北	3	木造 2階
52	鬼瓦の中	3階屋根	東	5	軽量プレハブ 3階
56	軒下	2階屋根	南	6	木造 2階
64	鬼瓦の 瓦下	"	東	25	"
69	鬼瓦, けらば瓦 戸袋	2階	東北	5	"
⑨0	ボックスと壁の 隙間	4階	北	11	鉄筋コンクリート造4階×
91	通気孔 3ヶ所	2階屋根	南・北 西南角	17	木造 2階
36	"	"	西	4	"
37	軒下	"	西北	10	"
38	水道管と板の間 (椀木・横板の隙間)	2階 窓の下	西	5	"
39	軒下	2階屋根	南	6	"
40	瓦の下	"	西	6	"

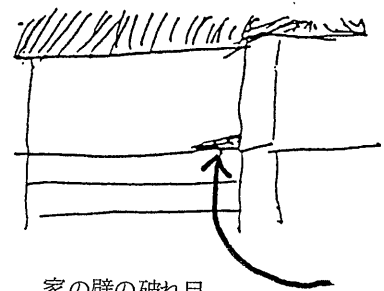
ねぐら番号	コウモリの 出入りする場所	同左 高さ	同左 方角	個 体 数	建築形態
99	けらば瓦, 軒下 樋の裏	2階屋根	西・南 東	15	木造 2階
107	鬼瓦 (スレート瓦)	"	東	32	" ×
111	換気窓	5階	西	50	鉄筋コンクリート造5階
120	ベランダ取付の 梁の裏	2階	西南角	20	木造 2階
123	赤色鯉鱗うら	2階	西	12	"
130	2階屋上隙間 2ヶ所	2階屋根	北	30	屋上プレハブ
131	樋の裏 鼻かくし	"	南 東南角	8	木造 2階
142	軒下	"	北	6	"
143	樋の裏 換気扇	"	西北	5 3	"
148	軒下	"	北東	20	ドイツ下見
151	瓦下	"	東西南 北	8	木造 2階
①60	通気孔	4階	北	10	鉄筋コンクリート造4階×

No. 24



鬼瓦の中

No. 26



家の壁の破れ目
(その下は板張り)

